

イネもみ枯細菌病菌の薬剤耐性

県内での発生が懸念される「イネもみ枯細菌病の薬剤耐性菌」について調査した結果、カスガマイシン剤の耐性菌は発生が認められませんでした。オキシリニック酸剤では調査圃場の7割で耐性菌が出現しており使用を中止する必要があります。

イネもみ枯細菌病の防除薬剤であるカスガマイシン剤及びオキシリニック酸剤に対する薬剤耐性菌は、他県において発生が確認され、本病に対する防除効果の低下が報告されています。島根県においても、オキシリニック酸剤の種子消毒で効果低下事例が発生したため、県内21圃場で菌株を採集し耐性菌調査を行いました。

1. カスガマイシン剤耐性菌の発生状況と対策

全ての圃場で耐性菌は確認されませんでした。耐性を発達させないために原則として年1回までの使用の抑制が望まれます。

2. オキシリニック酸剤耐性菌の発生状況と対策

調査圃場の71.4%で耐性菌が発生しており、防除効果の低下が予想されました。特に採種圃場での使用は避ける必要があります。

※薬剤耐性菌：薬剤に対して感受性が低下し、薬剤が効きにくい病原菌

※カスガマイシン剤：商品名にカスミン、カスラブ等がつく薬剤

※オキシリニック酸剤：商品名にスターナがつく薬剤

写真1 イネもみ枯細菌病の症状



なお、この結果について2011年3月11日付発表の技術資料第2号で注意喚起したところですが、引き続き注意をお願いします。

問い合わせ先：資源環境研究部 病虫科（担当：永島 進、山本淳）

TEL：0853-22-6772
E-mail：nougi@pref.shimane.lg.jp